

第2学年	教科名	使用教科書	光村図書 国語2	担当教員	三宅 由祐
------	-----	-------	----------	------	-------

<p>【身につく力】</p> <p>豊かな「自己表現力」 一多角的に読み取り、考えを深める力</p>
<p>【学習目標】</p> <p>(1)社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができる。</p> <p>(2)社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。</p> <p>(3)言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。</p>

評価	評価の観点	評価の方法
知識・技能	言葉の特徴や使い方、話や文章に含まれている情報の扱い方、我が国の言語文化に関する知識及び技能を身につけ、様々な場面で活用する力を取得しているかを評価する。	・定期テスト ・小テスト（漢字・古典・漢文などで実施）
思考・判断・表現	言語を通して正確に理解したり適切に表現する力や、言語をてがかりとしながら論理的に思考する力や豊かに想像する力がついているかを評価する。	・定期テスト ・パフォーマンス課題
主体的に学習に取り組む態度	授業の課題や目標を達成するために自分が工夫して取り組んだことや意識したことを振り返ることができるかや、学習によって得た新たな見解や自身の変容について捉えることができているかを評価する。	・振り返りシートの記述 ・パフォーマンス課題

【授業の進め方（授業のポイント）】

- ・物語文や論説文、古文の読み取りを通して様々な人々の経験や考え方に触れ、時に寄り添い、時に批判をしながらか、自身の「考え方」を形にしていきます。
- ・授業の中で触れる漢字や文法、ことわざなどを身につけることは、自身の「考え方」をより豊かに、正確に表現するために必要なものです。「ただ暗記して終わるもの」ではなく、「日常でどのように使うのか」を考えながら身につけていきましょう。
- ・文章を読んで内容を理解するだけでなく、読んだことに対する自分の思いや考えを言葉にしていきます。繰り返し自分の考えを言葉にしておくことで、思考力や表現力を高めていきます。これを積み重ねていくことで「豊かな自己表現力」を実現していきます。

【家庭学習について】

- ・教科書を読んで意味が分からなかった語句の意味調べをしておくだけでも、【学習目標】の(1)の達成に繋がります。
- ・本や新聞などの文章を読んで様々な人の考え方に触れ、それについて思いを巡らせることが(2)の達成に繋がります。ぜひたくさん文章に触れてください。
- ・模試や受験では、「初めて見る文章」を読んで、問題に取り組むことになるので、なるべく色々なジャンルの文章を読み、たくさん問題を解いていくことが大切です。

1 学期		2 学期		3 学期	
①見えないだけ	①詩の内容を読み取り、詩の魅力を見いだすことができる。	①ヒューマノイド	①登場人物の言動の意味などについて考えて、内容について解釈したことをまとめている。	①君は「最後の晩餐」を知っているか／「最後の晩餐」の新しさ	①二つの文章を比較し、特徴を捉えたりすることで、筆者の意図や目的について考えたことをまとめ、伝えられている。
②アイスプラネット	②人物どうしの関係性を読み取り、整理することができる。	②字のない葉書	②文章の構成や表現の効果について考え、自分の意見を述べるができる。	②漢詩の風景	②漢詩の気に入った表現や句を引用しながら、構成や表現の効果を伝えることができる。
③枕草子	③作者の四季についての見方や考え方を理解し、自分の考えとの比較を通して共通点や違いを説明することができる。	③モアイは語る	③文章の構成や論理の展開に着目し、自身の意見を述べるができる。	③走れメロス	③登場人物や表現の仕方など、観点を明確にして作品の魅力伝えていく。
④用言（動詞・形容詞・形容動詞）	④用言の性質、特徴を理解し、活用の種類やルールを説明することができる。	④月夜の浜辺	④詩の表現の効果について考え、詩に与えている効果を述べるができる。	④鍵	④詩の中の言葉に着目し、印象に残った表現や語句から感じたことをまとめ、発表することができる。
⑤クマゼミ増加の原因を探る	⑤文章全体から「文章」と「図表など」を結び付け、文章中の図表やグラフが何のために示されているか、自分の意見を述べるができる。	⑤平家物語「扇の的」	⑤平安時代の武将たちの価値観を理解し、今の言葉で伝えることができる。	⑤助動詞	⑤助動詞の性質や特徴を理解し、説明することができる。
⑥短歌に親しむ、短歌を味わう	⑥短歌の効果や特徴を捉え、短歌を鑑賞したり、創作できる。	⑥仁和寺にある法師	⑥文章を読んで理解したことを、わかりやすく伝えることができる。	⑥描写を工夫して書こう	⑥これまでに読んだ物語や小説を参考に、場面の様子や人物の心情を表す表現ができる。
⑦言葉の力	⑦文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験に結び付け、自分の考えたことをまとめられている。	⑦助詞	⑦助詞の性質や特徴を理解し、意図して助詞を使い分けることができる。		
⑧類義語・対義語・多義語	⑧類義語や対義語、多義語を話や文章の中で使用し、語感を磨き語彙を豊かにしている。	⑧書写・習字	⑧目的や必要に応じて、楷書または行書を選んで書くことができる。		
⑨魅力的な提案をしよう	⑨資料や機材を用いたり、根拠や論理の展開に注意しながら、わかりやすく伝えるように表現を工夫している。				

第2学年	教科名	使用教科書	「中学生の地理」「中学生の歴史」(ともに帝国書院)	担当教員	松山颯一郎・佐々木啓輔
------	-----	-------	---------------------------	------	-------------

付けたい 資質・能力	<h1>社会参画力</h1>	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	○社会的事象について(～は～である)理解し、その知識を身につけている。 ・用語・語句や特色・意味など概念に関わる知識 ○社会的事象などについて調べ、まとめる技能をつけている。 ・課題の解決に必要な情報を集める。【収集する】 ・収集した情報を見方・考え方を働かせて読み取る【読み取る】 ・読み取った情報を課題解決に向けてまとめる【まとめる】	・定期テストの点数 ・ワーク ・パフォーマンス課題
		思考・判断 ・表現	○【思考力・判断力】に関わって ・社会的事象を伝え、社会的事象の意味や意義、それぞれの関連について、考察する。 ・社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想(複数の立場や意見を踏まえて選択・判断)している。 ○【表現力】に関わって ・適切な資料・内容や表現方法を選び、根拠や理由を明確にして、論理的に説明する。 ・仲間との話し合いて、仲間の主張を踏まえたり、取り入れたりして、立場や根拠を明確にして主張・議論している。→社会参画の視点	・定期テストの点数 ・パフォーマンス課題
		主体的に学習に 取り組む態度	○学習単元・課題について主体的に調べ分かつて課題を意欲的に追究している。 ・単元の「見直し」をもつ ・他者と協働しながら粘り強く考える(試行錯誤しながらでも考えを持つ) ・振り返りや学んだことの意味について考える。 ○よりよい社会を考え、学んだことを生かそうとする。 ・学んだことを、社会生活にどう生かそうとするか。 ・よりよい社会を創るために、自分で「新たな問い」を作る	・振り返り ・パフォーマンス課題

【授業の進め方(授業のポイント)】 ＊基本的には、教科書に沿って教科書のページ順に学習する。 ＊進度の目安は1時間で見開き2ページ進めることを原則とする。 ＊ノートを書く際に、「疑問に思ったこと」、「学んだこと」など、個人で考えることを積極的にメモを取って大切にすること。 →自分で考える習慣が自分を「深化」させ、振り返りを書くための手立てとなる。	【家庭学習について】 ＊自主学习ワークは、1つずつ〇つけますこと。 ・まずは自分の力で取り組むこと。漢字で分からないものは、かな交じりで書く。 ・その後、教科書を見て分からなかったところを解く。→正しい漢字に訂正する。 ・最後に答え合わせをして、教科書を見て分からなかった部分はチェックしておく。 ＊学習したことを多面的につなげるため社会的事象について、常に「アンテナ」を高く持つこと。
---	---

1学期		2学期		3学期	
・日本の地域的特色 「向日市防災マップを読み取ろう」 ・武士による全国支配の完成 ・社会の変化と幕府の対策 「赤穂事件の処罰の方針について考察しよう」	自分の住んでいる向日市の防災マップを読み、危険な場所と安全な避難所を見分け、その理由を土地の高さや川との位置関係から説明している。 江戸幕府が定めた参勤交代や武家諸法度などの制度を挙げながら、「大名を江戸と領地に行き来させて力を弱めた」「きまりによって争いを防いだ」言葉を用いて、武士が日本全体を安定して治めることができた理由を説明している。 商業の発展や農村の困窮を、人々の暮らしが不安定になった原因として捉え、打ちこわしや百姓一揆の発生と結び付けている。 赤穂事件について、関係した人物それぞれの立場や、江戸時代の武士社会の考え方をふまえ、出来事の意味を説明している。	・身近な地域の調査 「向日市の今と昔を比較しよう」 ・九州地方 ・中国・四国地方 「架空の町の町おこしを考えよう」 ・近畿地方 ・欧米諸国における「近代化」 ・開国と幕府の終わり ・明治政府による「近代化」の始まり ・近代国家への歩み	地域の現状を捉え、自分の住んでいる町の課題について、解決に向けた取り組みを述べている。 自然環境を生かした産業や防災の取り組みを、地域の課題と結び付けて述べている。 地域の特徴を基に、課題解決につながる町おこしを構想している。 歴史的景観を守る取り組みを、住民の生活や産業の変化と結び付けて考え、学んだことを地域や自分の生活にどう生かせるかまで考えている。 「だれが得をしたか」「だれの生活が苦しくなったか」「政府はどう対応しようとしたか」に着目して、近代化を立場ごとに比べて考えている。 開国による社会の変化を捉え、幕府の対応や限界と結び付けながら、幕府が終わりを迎えた理由を説明している。 地租改正や徴兵令などの政策を例に挙げ、近代国家づくりに向けた社会の変化を説明している。 同じ教育や兵役を義務づけた理由を、教育と兵役によって国を守る力を高め、外国に支配されない国をつくるためという視点から説明している。	・中部地方 ・関東地方 「東京の極集中に賛成か、反対か」 ・東北地方 ・北海道地方 ・帝国主義と日本 ・アジアの強国の光と影	名古屋大都市圏の形成について、中京工業地帯の位置と広がりや周辺地域との結びつけて説明している。 東京の極集中について、東京圏に人口や仕事が集まっている資料を基に、便利になる点と地方が衰える点の両方を挙げ、自分の考えを理由とともに述べている。 東北地方の人々の生活や産業と、冷涼な気候や広い平野・山地・海に囲まれた自然環境、さらに新幹線や高速道路などの交通網との関わりについて、米作りや農林水産業、産業の発展の様子を関連付けて説明している。 開発によって生活が便利になる一方で自然にどのような影響が出るのか、また異なる文化をもつ人々が共に暮らす中でどのような課題が生まれるのかを問いかけた上で、新たな問いを自分で立てている。 帝国主義の広がりを背景に、日本が国力を高め、領土を広げた背景を説明している。 近代化による生活の変化について、生活が向上した面と新たに生じた問題点の両方を具体例を挙げて示し、比べながら生活が便利さと問題が生じたことについて説明している。

第2学年	数学	使用教科書	新編 新しい数学2(東京書籍)	担当教員	宮崎 茜
------	----	-------	-----------------	------	------

付けたい 資質・能力	論理的思考力 ～筋道立てて考え、なぜそうなるかを説明できる力～	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	学習の過程を通じた知識及び技能の習得状況について評価を行う。定期テストや小テストで習熟度を評価する。	定期テスト 小テスト レポート
思考・判断 ・表現	知識及び技能を活用して課題を解決する等のために必要な思考力、判断力、表現力等を身につけているかを評価する。	定期テスト レポート 自己評価表		
主体的に学習に 取り組む態度	知識及び技能を習得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を評価する。	レポート 自己評価表		

【授業の進め方(授業のポイント)】

- 苦手な人はまず、基本問題を理解することを目標にしましょう。
- 基本が理解できたら、発展問題に挑戦力を伸ばしましょう。
- 他の人への質問や全体への呼びかけに対しても、「自分ならこう考える」という意識を常にもつようにしましょう。
- 考え方は1つではありません。自分なりの考えをもちましょう。
- 間違っただけの解答をしたときは、すぐに解答を消さずに間違っただころを見つけ、なぜ間違いが起こったのかを順を追って考えましょう。

【家庭学習について】

- 授業で学んだことはその日のうちに家で復習しましょう。
- 分からないところは解答を参考にもう一度考えましょう。
- よく考えても分からないところは次の日に先生に聞きましょう。
- その日に習った問題をもう一度解いてみましょう。
- 復習に重点を置いて毎日学習をしましょう。
- 眺めるだけの学習ではなく、書く学習を行いましょう。
- 問題が自分ひとりで解けるようになるまで、繰り返し学習しましょう。

1学期	2学期	3学期
1章 式の計算 1節 式の計算 2節 文字式の利用 2章 連立方程式 1節 連立方程式とその解き方 2節 連立方程式の利用 3章 1次関数 1節 1次関数 2節 1次関数の性質と調べ方	・既に学習した計算の方法と結びつけて、整式の加法と減法及び単項式の乗法と除法の計算の方法を考察し、計算できる。 ・文字を用いた式を、具体的に活用する場面を見つけ、活用しようとしている。 ・1元1次方程式と結びつけて、連立2元1次方程式を解く方法を考察し、解を求めることができる。 ・連立2元1次方程式を、具体的に活用する場面を見つけ、活用しようとしている。 ・1次関数として捉えられる二つの数量について、表・式・グラフを相互に結びつけて変化や対応の特徴を読み取ることができる。	・図形の辺上を動く点によってできる図形の面積の変化を、1次関数の式やグラフで表すことができる。 ・基本的な平面図形の性質を見だし、平行線や角の性質を基にしてそれらを確かめ説明することができる。 ・三角形の合同条件などを基にして三角形や平行四辺形の基本的な性質を証明することができる。
5章 三角形と四角形 2節 平行四辺形 6章 確率 1節 確率 2節 確率による説明 7章 データの活用 1節 四分位範囲と箱ひげ図	・三角形や平行四辺形の基本的な性質などを有効に活用されている製品を探し、利用されている理由を説明することができる。 ・同様に確からしいことに着目し、起こりうる場合を樹形図や表を使って全部数えあげ、確率を求めることができる。 ・あたりやすさを確率を用いて求めることができる。 ・四分位範囲や箱ひげ図を用いてデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し傾向を読み取ることができる。	

第2学年	教科名	使用教科書	未来へひろがるサイエンス2(啓林館)	担当教員	橋元秀太・川崎楽
------	-----	-------	--------------------	------	----------

付けたい 資質・能力	論理的思考力		評価	評価の観点	評価の方法		
	【身に付く力】 (1)自然の事物・現象についての基本的な概念や原理・法則など理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察・実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能。 (2)自然の事物・現象から問題を見出し、見通しを持って観察・実験を行い、得られた結果を分析して解釈し、表現するなど、科学的に探求する力。 (3)物事を「結論」と「根拠」に分けて、道すじを立てて考える力。 (4)原理原則を理解して活用する力。	知識・技能	問題を見いだし見通しをもって観察、実験などを行い、規則性、関係性、共通点や相違点、分類するための観点や基準を見いだして表現している。	見通しをもって観察、実験などを行い、自然の事物・現象に対する概念や原理・法則の理解するとともに、探究の過程を通して科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けている。	・定期テスト ・小テスト ・実験レポート ・パフォーマンス課題 ・振り返りシート ・ワーク		
	【学習目標】 (1)自然の事物・現象についての理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。 (2)観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。 (3)自然の事物・現象に進んで関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。 (4)学んだことを次の課題や日常生活や社会に活用しようとする態度を養う。					思考・判断 ・表現	・定期テスト ・小テスト ・実験レポート ・パフォーマンス課題 ・振り返りシート
						主体的に学習に 取り組む態度	

【授業の進め方(授業のポイント)】

- ・「なぜ？」にこだわる。
例えば、「雲ができる」という事実より、「なぜ空で水滴ができるのか」や「なぜこの結果になったのか」というような、疑問からはじまり、その疑問を解き明かしていく方が、強く印象に残り、記憶が定着しやすいです。「なぜ」を繰り返すことからはじめましょう。
- ・ノートの取り方を工夫する。
黒板に書かれたことだけでなく、自分が大切だと思ったことや疑問に思ったことを記述するように意識してください。また、新たな発見や疑問が解消されたことなど記述しておく振り返り(復習)が行いやすいです。自分だけのノートが作成できるといいでしょう。
- ・観察・実験レポートや課題
観察・実験を行った際にレポートがあります。結果から考察は自らが考え察したことを記入するものであるため、他の人の記述をまねするのではなく、自ら考えたことを書くようにしてください。考察での自身の考えが正しいか、間違っているかは重要ではありません。観察・実験を通して自分で考えたことを自らの言葉で表現することが大切です。表現する力を身につけて欲しいと考えています。

【家庭学習について】

- ・家庭では、復習に重点を置いて計画的に勉強をしてください。能率的に勉強するためには、1週間ごとの内容を見直し、大切な語句や公式を覚えておくのがよいでしょう。そのときには、「まとめノート」を作成する方法が効果的です。
- また、定期テスト(中間・期末)については、少なくとも1週間前から取り組み、ノートと教科書で復習した後、副教材である「理科の学習」の問題や、教科書に載っている問題を解いて理解できているか確認するようにしましょう。
- 「教科書」「理科の学習」にのっている力だめしや、まとめの問いといった発展問題も積極的に取り組んでおきましょう。
- 定期テスト後は間違えた箇所を見直し、解き直しをノートにまとめることで、3学年時に各学年の自分の苦手箇所が素早く分かるようになります。

1学期		2学期		3学期	
化学変化と原子・分子 1章 物質の成り立ち 2章 物質の表し方 3章 ささまざまな化学変化 4章 化学変化と物質の質量	・実験結果から、物質が別の物質に分かれたことを根拠と結論に基づいて表現できる。 ・実験結果が予測や理論値と異なった際に、実験の手順や誤差の原因を振り返り、修正しようとしている。物質を化学式で書き、化学反応式の係数を正しく書ける。 ・酸化や還元反応を、酸素に注目して正しく説明できる。 ・反応前後で全体の質量が変わらないことを導き出せる。化学反応式を用いて、反応物と生成物の関係を記述できる。	動物の生活と生物の進化 3章 動物の体のつくりとはたらき 4章 動物の行動のしくみ	・刺激を受けてから反応するまで経路を、感覚器官、神経、運動器官と結びつけて説明できる。 ・始祖鳥の化石から、爬虫類と鳥類の両方の特徴を見つ、進化の過程を推測できる。またそれらが共通の祖先を由来していることを説明できる。	電流の性質とその利用 1章 電流の性質 2章 電流の正体 3章 電流と磁界	・回路のつなぎ方によって、電流や電圧の加わり方がどう変わるかを判断できる。 ・抵抗のグラフから、電圧と電流が比例関係にあることを読み取れる。 ・真空放電や電子線の観察から、電流の正体が「電子」の流れであることを判断できる。 ・右ねじの法則やフレミング左手の法則を使って、磁界の向きや力の向きを判断できる。 ・モーターや発電機の違いが説明できる。
動物の生活と生物の進化 1章 生物の体をつくるもの 2章 植物の体のつくりとはたらき	・植物細胞と動物細胞を比較し、共通点や相違点を見つけられる。 ・食物、酸素、不純物の流れに関連する器官と結びつけて説明できる。	地球の大気と天気の変化 1章 地球をとり巻く大気のような 2章 大気中の水の変化 3章 天気の変化と大気の動き 4章 大気の動きと日本の四季	・「気温が下がると露店に達し、水蒸気が水滴になる」というようなルールを現象に当てはめて記述できる。 ・天気図を見て、高気圧・低気圧の位置から風の向きを判断できる。寒冷前線や温暖前線が通過する前後の、気温・風向・天気の変化を正しく予想できる。 ・冬や夏の気圧配置から、季節を判断できる。 ・梅雨や秋雨は、異なる気団がぶつかり合って停滞前線ができることで起こると説明できる。 ・台風の進路で風の吹き方が変わることを予想できる。		

第2学年	音楽	使用教科書	中学生の音楽2・3の上、中学生の器楽	担当教員	平田 麻美
------	----	-------	--------------------	------	-------

付けたい 資質・能力 【身に付く力】 ・しっかりとした発声で仲間と美しく響く声で歌う力(歌唱・合唱) ・アルトリコーダーの運指を理解して演奏する力(器楽) ・音楽の良さを味わい、魅力を文章で表現する力(鑑賞) ・音符やリズムの組み合わせを工夫する力(創作) 【学習目標】 ・曲想と音楽の構造などとの関わりや音楽の多様性のついて理解するとともに、創意工夫を生かした「音楽表現」をするために必要な歌唱・器楽・創作の技能を身につける。 ・「音楽表現」を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。 ・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、「音楽表現」活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。	<h2 style="font-size: 2em;">音楽表現力</h2>	評価の観点	評価の内容・方法	評価の場面・材料
		知識・技能	【知識】 曲の背景や作曲家について、楽器の奏法についてなど、「音楽表現力」につながる知識がどのくらい身につけているかを筆記テストで測ります。 【技能】 歌唱・合唱や器楽や創作について、授業で取り組んだことが「音楽表現力」としてどのくらい身につけているかを実技テストで測ります。	実技テスト (歌唱・合唱、アルトリコーダー・創作) 筆記テスト(定期・小テスト)
		思考・判断・表現	歌唱・合唱や器楽や創作では、「音楽表現」をどのように創意工夫しているかについて記述した内容を評価します。鑑賞活動では音楽を形づくっている要素をもとにしながら、音楽の良さや美しさを味わって聴き、曲の魅力などを記述した内容を評価します。	鑑賞曲の各ワークシート (「フーガ ト短調」など) 合唱のワークシート (「夏は来ぬ」など合唱曲)
		主体的に学習に取り組む態度	「音楽表現力」の向上に向けて知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身につけたりするために、自らの学習状況を把握し、学習の進め方について試行錯誤するなど、自らの学習をどのように調整しながら学ぼうとしているかについて記述した内容を評価します。	振り返りシート (歌唱・合唱、鑑賞、アルトリコーダー、創作)

【授業の進め方(授業のポイント)】 ①歌唱・合唱や器楽では、曲ごとに学ぶテーマを決めて学習します。 実技テストも実施しますので、練習の成果を発揮できるように、練習を大切にしましょう。 また、お互いの表現を聴き合うこと、アドバイスを行うことで「音楽表現力」を深めましょう。 ②鑑賞では、音楽の構造や雰囲気を感じ取りながらよさや美しさを味わい、曲の魅力や文章で表現しましょう。 鑑賞で学んだことを「音楽表現力」へとつなげましょう。 ③創作では、四分音符や四分休符、八分休符をつかって簡単なリズム創作をします。 それをもとに歌詞の創作をします。	【家庭学習について】 生活の中にあふれている音楽の中に、授業で学んだ曲や、学んだ曲とよく似た構造をもつ音楽が隠れています。どんな構造をした音楽なのかという視点を持って聴くと、学習がさらに深まります。自分の好きな音楽、余り聴かないジャンルの音楽などさまざまあると思いますが、ぜひ学んだ知識を活かして聴いてみましょう。そのことが「音楽表現力」を高めることにつながります。
---	---

1学期		2学期		3学期	
【歌唱・合唱】 歌曲「夏の思い出」 合唱曲「夏は来ぬ」	「夏の思い出」…三部形式を理解し、曲について視点を決めて、ワークシートで自分の考えを記述します。 bの姿…音の進み方、特徴的な強弱について、自分の考えを記述している。	【歌唱・合唱】 文化祭合唱曲※未定 歌曲「荒城の月」	「文化祭学年合唱曲」※未定…混声三部合唱曲に取り組みます。「声の響き」については「姿勢」の視点から工夫します。 bの姿…各フレーズごとに概ね正しい音程で歌える。 聴き合いで達成度を確認し、完成を目指している。	【歌唱・合唱】 合唱曲「おぼろ月夜」	「おぼろ月夜」…混声四部合唱のアカペラに挑戦します。「声の響き」は「発音・口の形」の視点から工夫します。 bの姿…各フレーズごとに、概ね正しい音程で歌える。 聴き合いで達成度を確認し、完成を目指している。
【鑑賞】 「フーガ ト短調」	「夏は来ぬ」…CDを聴いて正しい音程で歌うことを目指し、「声の響き」については、声を身体はどこで響かせるかについて工夫します。 bの姿…各フレーズごとに概ね正しい音程で歌える。 聴き合いで達成度を確認し、完成を目指している。	【鑑賞】 「交響曲第5番ハ短調」	「荒城の月」…曲の途中で使用される「#」が原曲と編曲でどんな変化を生むか考えます。 bの姿…「#」が曲にどのような効果をもたらすかについて、自分の考えを記述している。	【鑑賞】 歌舞伎「勧進帳」	歌舞伎「勧進帳」…伝統音楽の歌舞伎に触れ、長明の特徴や、歌舞伎音楽の良さについて、自分の考えを記述します。 bの姿…注目した場面の歌舞伎音楽について、自分の考えを記述している。
【アルトリコーダー】 「オーラリー」 「アニーローリー」	「フーガ ト短調」…フーガの構造を知覚し、楽器の音色の良さや音楽の美しさについて、自分の考えを記述します。 bの姿…音楽や音色の良さについて、自分の考えを記述している。	【アルトリコーダー】 継続「オーラリー」 「アニーローリー」	「交響曲第5番 ハ短調」…オーケストラの響きや音の重なり注目し、音楽の魅力について自分の考えを記述します。 bの姿…テクスチャ(音の重なり)の視点から、音楽の良さはどこか、自分の考えを記述している。	【アルトリコーダー】 「ラヴァーズ・コンチェルト」	「ラヴァーズ・コンチェルト」…サミングを用いた運指で演奏できるように練習します。 bの姿…A1パートについて条件をクリアしながら、最後まで吹ける。
【創作】 リズム・歌詞創作	リズム創作・歌詞創作…リズムをつくり、それをもとにテーマに沿った歌詞を創作します。 bの姿…自分のレベルにあったリズムを創作し、歌詞を付けている。	【創作】 継続 リズム・歌詞創作	「オーラリー」「アニーローリー」…1学期から継続 リズム・メロディー創作…1学期から継続		

第2学年	教科名	使用教科書	美術2・3(光村図書)	担当教員	藤川真奈美
------	-----	-------	-------------	------	-------

<p>付けたい 資質・能力</p> <p>【身に付く力】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・造形的な視点を豊かにするために必要な知識を身につけ、自分の意図をよりよく表現するために造形的に表す力を伸ばす。 ・表現の活動、鑑賞の活動を通して、作りたいものを豊かに発想し、構想を練ったり美術に対する見方や感じ方を広げていく力 ・もの作りの楽しさを味わい、主体的に創造していく力 <p>【学習目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画材や素材の使い方や、自分の表現に合う効果的な使い方を知り、自分の制作意図に合った作品になるよう表現を工夫する。 ・日本や世界の文化や芸術の良さ、友達の表現の良さなどを味わう。 	<p>思いや考えを伝える創造的な表現力</p>	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・創作に必要な知識と技能を身につけ、自分の制作に生かしているか。 ・自分の作りたいものを、工夫して創造的に作っているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品 ワークシート 定期テスト
		思考・判断 ・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・自ら作品のテーマやアイデアを発想し、それを深めて制作しているか。 ・作品を鑑賞したり他の人の意見を知るなどして、良さや新しい発見を感じ取れるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品のデザインやアイデア 定期テスト ワークシート
		主体的に学習に 取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・もの作りを楽しみ、丁寧に仕上げようと工夫して、資料の収集、制作活動の計画や作品の完成に向けて、創意工夫が出来ているか。 ・自分の目標に向かって、新たな気づきや学びを得ているか。 ・学習計画に沿って、自己調整しながら作品作りに取り組んでいるか。 	<ul style="list-style-type: none"> 作品への取り組みの様子 ワークシート 振り返りシート

<p>【授業の進め方(授業のポイント)】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な芸術作品を鑑賞し、自身の制作を工夫する。 <p>(こんな作品を作ってみたい、どうやってつくるかなど、探究して作品を作っていく)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・さまざまな感性や表現があることを知り、表現を楽しんだり深めたりする。 ・授業ごとに学習を振り返り、気づきや思考の深まりを具体的に記録していく。 ・マッピングワークシートやプランニングワークシートを活用し、スモールステップで制作を進める。 	<p>【家庭学習について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作りたいもののイメージを持ち、日常生活の中でアンテナを張って過ごす。 ・作りたいものが決まったら、情報や資料を積極的に収集する。
--	--

1学期	2学期	3学期
<ul style="list-style-type: none"> ・ポスター制作 ・多くの人に伝わりやすく、魅力的なデザインを工夫し、表現方法を工夫して表す。また色彩学習や構成美の要素を知る事で、より伝わり易くする為の色彩や構図を工夫する。 ・鑑賞「漫画表現を楽しむ」 ・絵巻物から現代の漫画表現やアニメーションなどの共通点や魅力について学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞「最後の晚餐を鑑賞しよう」 ・ルネサンス期の作品鑑賞を通して、思考の広がりや表現の工夫の面白さを味わう。 ・ポップアップカードの制作 ・贈る相手のことを考えて、動きのあるメッセージカードを工夫してつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞「日本の美術を楽しむ」 ・日本絵画の鑑賞を通して、西洋に影響を与えた大胆な構図や明快な色彩の魅力を知り、日本文化への理解を深める。 ・パッケージデザインを考える ・「地域の魅力」を表すお菓子のパッケージデザインを考える。
<ul style="list-style-type: none"> ・アングルやモチーフを工夫して構図を練り、キャッチコピー、色、文字など様々な表現の工夫について学習したことを生かして、伝えたいことが効果的に伝わるポスターを完成させている。 ・絵巻物から現代までの漫画的表現の技法や効果について学び、その良さや創意工夫についてワークシートにまとめ、自分の表現に生かしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ルネサンス期の芸術家やその作品の造形的な魅力や時代背景などについて学び、表現の意図と創造的な工夫について考え、自分の言葉で良さを表現している。 ・形や色、飛び出すしかけを工夫して考え、それぞれがもたらす効果を意識しながら試行錯誤を重ね、自分の思いが伝わるよう、完成までの見通しをもってポップアップカードを作っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本美術の造形的な良さや海外に与えた影響、諸外国の文化との共通点や相違点について学び、表現の意図と創造的な工夫について考えを深めている。 ・商品の魅力が伝わるようなデザイン、機能、付加価値、美しさなど様々な表現の効果を総合的に考え、構想を練り、作品を試作して考えたことを表している。

第2学年	保健体育	使用教科書	新しい保健体育(東京書籍)	担当教員	荒木 宣
------	------	-------	---------------	------	------

付きたい 資質・能力	挑戦する力	評価の観点	評価の内容・方法	評価の場面・材料
【身に付く力】 基礎的・基本的な体力 自身の目標に向けて挑戦する力 仲間と協力して課題を解決する力 健康的な生活を送るための力		知識・技能	種目の基本用語や技術の名称、ルールを理解しているか、健康な生活を送るための知識を習得しているかを評価する。 基本的な技術を習得し、それを実践できるか、また、試合や記録会で身に付けた知識や技能を生かして表現できるかを評価する。	定期テスト 実技テスト 試合の中で技能を発揮できているかどうかを観察
		思考・判断 ・表現	知識や技能を活用し、ペアやグループでの観察やタブレットの動画を見て、自身の課題を発見し、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりすることができるかを評価する。	定期テスト 学習カード グループ、ペアでの話し合い活動で仲間の課題や出来映えを伝えていくかを観察
		主体的に学習に 取り組む態度	各領域に積極的に取り組むことを通し、自身の課題の発見や克服のために粘り強く練習に取り組む姿や、記録の向上に努めている姿、仲間と協力している姿勢を評価する。	授業の観察 学習カード 保健プリントの 記述内容

【授業の進め方(授業のポイント)】

- 準備運動や補強運動を通して、怪我の防止や基礎的な筋力や体力の向上に繋げる。
- 基礎的・基本的な技術を習得に向けて、自他の課題と向き合いながら取り組む。
- ペアやグループの取り組みを積極的におこなう。
- 話し合い活動や振り返りを通して、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりする。

【家庭学習について】

保健分野で学ぶ知識をもとにして、基本的な生活習慣の確立や健康的な生活を送ること。

1学期		2学期		3学期	
【体育】 体づくり運動	新体カテスト ・自身の体力の課題を知る。 集団行動 ・整列、準備運動等の確認	【体育】 球技	ソフトボール ・正しい捕球の姿勢でゴロ、フライが捕球できる。 ・チームの課題を見つけ、自身の考えを伝えることができる。	【体育】 陸上競技	長距離走 ・自身の課題を分析し、9分台以上を目指す。
陸上競技	走り高跳び・走り幅跳び ・高跳びでは100cm、幅跳びでは250cm跳ぶために、自分の助走や踏切の課題を見つけ、フォームを修正しようとしている。	器械運動	跳び箱運動 ・自分に合った高さで、正しく、開脚跳び、抱え込み跳び、台上前転または前方倒立回転跳びができる。 ・ペアと協力し、自身の課題を見つけ、修正しようとしている。	球技	サッカー ・リフティングを5回以上できるようにする。 ・角度のついた位置からシュートを決められるようにする。
球技	バスケットボール ・レイアップシュートを入れられるようにする。 ・ゴール下シュートを入れられるようにする。 ・上記を達成するために、自身の課題を見つけ、修正しようとしている。	ダンス	創作ダンス・現代的なリズムのダンス ・仲間と協力し、創意工夫した発表ができる。	【保健】 4章 健康な生活と疾病の予防 ②	・疾病についてや喫煙・飲酒・薬物乱用の害について知り、自分の考えをまとめることができる。
		武道	柔道 ・正しい受け身ができる。 ・ペアと協力して投げ技の約束練習ができるようにするために、自分や他者の課題を見つけ、伝えることができる。	【体育理論】 2章 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	・運動やスポーツの意義や効果を知り、自身の課題を知ることや今後の生活で実践できるようにする。
		【保健】 3章 傷害の防止	・ケガを防ぐため、またはケガをしたときにどのようにすればよいかを知り、自身の考えをまとめることができる。		

第2学年	保健体育	使用教科書	新しい保健体育(東京書籍)	担当教員	清水 さより・伊藤 亜佐子
------	------	-------	---------------	------	---------------

付けたい 資質・能力	挑戦する力	評価	評価の観点	評価の方法	
		【身に付く力】 基礎的・基本的な体力 自身の目標に向けて挑戦する力 仲間と協力して課題を解決する力 健康的な生活を送るための力	知識・技能	種目の基本用語や技術の名称、ルールを理解しているか、健康な生活を送るための知識を習得しているかを評価する。 基本的な技術を習得し、それを実践できるか、また、試合や記録会で身に付けた知識や技能を生かして表現できるかを評価する。	定期テスト 実技テスト 試合の中で技能を発揮できているかどうかを観察
		【学習目標】 ・スポーツを通して集団行動でのルールやマナーを身に付ける。 ・スポーツを通して基礎体力を身に付ける。 ・基本的な運動技能を身に付け、自らスポーツを楽しむことができる。 ・スポーツの特性に触れる楽しみを見つけ出し、仲間と協力して取り組むことができる。 ・健康や安全について理解し実践していく力を身に付ける。	思考・判断 ・表現	知識や技能を活用し、ペアやグループでの観察やタブレットの動画を見て、自身の課題を発見し、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりすることができるかを評価する。	定期テスト 学習カード グループ、ペアでの話し合い活動で仲間の課題や出来映えを伝えていくを観察
		【授業の進め方(授業のポイント)】 ・準備運動や補強運動を通して、怪我の防止や基礎的な筋力や体力の向上に繋げる。 ・基礎的・基本的な技術を習得に向けて、自他の課題と向き合いながら取り組む。 ・ペアやグループの取り組みを積極的におこなう。 ・話し合い活動や振り返りを通して、自身の考えを深めたり、他者に伝えたりする。	主体的に学習に 取り組む態度	各領域に積極的に取り組むことを通し、自身の課題の発見や克服のために粘り強く練習に取り組む姿や、記録の向上に努めている姿、仲間と協力している姿勢を評価する。	授業の観察 学習カード 保健ノートの 記述内容

【家庭学習について】 保健分野で学ぶ知識をもとにして、基本的な生活習慣の確立や健康的な生活を送ること。
--

1学期		2学期		3学期	
【体育】 体づくり運動	新体力テスト ・自身の体力の課題を知る。 集団行動 ・集合隊形、整列の確認	【体育】 球技	バレーボール ・パス、サーブ、スパイクなどの基本的なボール操作を身に付け、ゲームを楽しむ。 ・自分やチームの課題を見つけ、自分の学びをどう活かしたか説明することができる。	【体育】 ダンス	創作ダンス・現代的なリズムのダンス ・基本ステップを身に付け、仲間と見せ合い、話し合い、教え合いを大切に、創作を楽しむ。
器械運動	跳び箱運動 ・安全に留意しながら技への挑戦に自ら積極的に取り組む。 ・技の行い方を理解し、基本となる技を滑らかに行うことができるようにして楽しむ。	陸上競技	走り幅跳び・走り高跳び ・基本的な効率のよい跳び方を身に付けながら、目標記録に挑戦したり、仲間と競争したりして楽しむ。	球技	バスケットボール ・ドリブルやパス、シュートなどの基本的なボール動作を身に付け、空いている場所に走り込む攻防を展開してゲームを楽しむ。
球技	ソフトボール ・作戦などの話し合いに自ら積極的に参加し、仲間とアドバイスしながら学習できる。 ・基本的な打撃と走塁での攻撃と、定位置での守備を展開してゲームを楽しむ。	武道	柔道 ・基本動作や基本となる技を用いて、簡単な攻防を展開して楽しむ。	【保健】 4章 健康な生活と疾病の予防②	・疾病についてや喫煙・飲酒・薬物乱用の害について知り、自分の考えをまとめることができる。
		陸上競技	長距離走 ・自分に合ったペース配分を決め、そのペースに応じたスピードを維持して走る。 ・ケガを防ぐため、またはケガをしたときにどのようにすればよいかを知り、自身の考えをまとめることができる。	【体育理論】 2章 運動やスポーツの意義や効果と学び方や安全な行い方	・運動やスポーツの意義や効果を知り、自身の課題を知ることや今後の生活で実践できるようにする。
		【保健】 3章 傷害の防止			

第2学年	教科名	使用教科書	新しい技術・家庭 技術分野 未来を創るTechnology	担当教員	大槻 晃央
------	-----	-------	-------------------------------	------	-------

付けたい 資質・能力	社会の変化に対応する力 ～持続可能な社会の中で～	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けているか。 →さまざまな発電方法に込められた技術の工夫について考えているかを確認する。電気による事故を防ぐ方法について考えている。	<知識>生活や社会で利用されているエネルギー変換の技術と生活や環境との関わりについて理解しているか。また、電気機器の点検ができる技能を身に付けているかを図る。 <技能>文書処理ソフトウェアにおいて、資料作りができていないか。はんだづけにおいて、安全・適切な製作（必要最低限の量で均一に揃えること）ができていないか。
思考・判断 ・表現	よりよい生活や持続可能な社会の構築に向けて、適切かつ誠実にエネルギー変換の技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を図る。 →情報機器の仕組みや、どんな加工がされ、組み合わせられているかを調べたり、実習に意欲的に参加しているか。	生活や社会の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、表現するなどして課題を解決する力を身に付けているか。 →さまざまな発電方法に込められた技術の工夫について考えているかを確認する。電気による事故を防ぐ方法について考えている。	定期テスト 振り返りシート(内容) 電気に関するレポート (内容) ソフトウェアの操作 (PowerPoint)	プリントの記述 振り返りシート(内容) レポート(内容)
主体的に学習に 取り組む態度				

【授業の進め方(授業のポイント)】
 ○板書を丁寧にしながら、授業内容の補足や説明をしっかりとメモしていくこと。
 →大事な単語をプリントに記入する。自分の考えを書くスペースは間違っても良いので、そのとき考えたことを記入する。補足として、例え話や由来などを話すので、メモ欄や空いたところにメモをとれば、見返したときにわかりやすいプリントに仕上がる。
 ○実習では、工具の使い方動画やヒントを参考にし、練習の時間にしっかりと試すこと。
 →お手本動画や解説プリントをしっかりと見る、練習時間は積極的に取り組み、わからないことはちゃんと質問するようにする。
 ○振り返りカードを丁寧に記入すること。
 →授業で学んだこと、疑問に思ったこと、質問などを記入しておけば、チェックした際、質問にコメントできたり、次の授業で全体に補足をしたり、個別で机間指導するなど、教師側も授業改善や修正ができます。各週の授業なので、実習のときには、次回の目標や予定を記入しておくこと、どの作業から始めれば良いかがすぐに思い出せて、スムーズに作業に取りかかれる。

【家庭学習について】
 ○プリントの単語だけを見るのではなく、説明できるくらい意味も確認しておく。
 →教科書の各ページにQRコードがついているので、読み込んで、理解を深めておく。
 →プリントに書いた補足や由来のメモが活きる。
 ○実習で使った工具やソフトの使い方、決まりなどは必ず振り返っておくこと。
 →定期テストや次回の実習に活かせる。
 ○日常生活の中で、使用している家電がどれだけ電気を消費しているのか?そのたこ足配線が使用できるかを考えたり、機械の動く仕組みを考えたりする。情報機器に触れる機会を増やす。→学習への理解が深まる。

1学期		2学期		3学期	
(1)生活や社会を支える情報の技術 ○情報の技術とは何だろう ○安全に利用するための情報モラル	→情報通信の基礎的な仕組みの必要性について理解し、なぜ情報機器が動くのかを説明することができる。 →著作権と知的財産権について理解し、自身の行動が権利の侵害にならないか判断ができ、情報を安全に利用することができるような記述が書ける。	(1)生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 ①エネルギー変換の技術とは何だろう ②発電の仕組みと特徴 ③電気を供給する仕組み ④電気回路について考えよう	→エネルギー変換の技術に込められた問題解決の工夫について、学習した内容を踏まえ、技術における見方・考え方を意識しながら考えている。 →はんだ付け実習において、製作の過程や結果の評価、改善及び修正しながら、はんだ付けにおいて正しいはんだの量や形を作ることができる。	(1)生活や社会を支えるエネルギー変換の技術 ①運動エネルギーへの変換と利用 ②回転運動を伝える仕組み ③機械が動く仕組み ④機械の共通部品と保守点検の大切さ ⑤電気機器を安全に使用するための技術	→機械を動かすための仕組みについて理解し、その機械がどのように動くかを説明することができる。電気事故を防ぐために、定期点検の必要性やたこ足配線をしなない配線について説明することができる。
(2)ネットワークを利用した双方向性のあるコンテンツに関するプログラミングによる問題の解決 ○コンテンツを構想しよう	→技術の見方・考え方を働かせ、双方向性のあるコンテンツの利用方法を考えることができる。	(2)エネルギー変換の技術による問題の解決 ①電気回路を設計・製作しよう ②問題解決の評価、改善・修正		(3)社会の発展とエネルギー変換の技術 ○これからのエネルギー変換の技術	

第2学年	教科名	使用教科書	新しい技術・家庭 家庭分野(東京書籍)	担当教員	中辻 佳子
------	-----	-------	---------------------	------	-------

付けたい 資質・能力	社会の変化に対応する力	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	生活の衣・食・住・消費生活についての基礎的な理解とそれらに係る技能、家族や地域との関わりについての理解を図る。	定期テスト 実習 作品 レポート
		思考・判断 ・表現	自分事として問題を見いだして課題を設定し、より良くする方法を考察し、実践・改善し論理的に表現したり発表するなど、これからの生活を解決する力を身に付けている。	定期テスト 作品 レポート
		主体的に学習に 取り組む態度	家族や地域の人と協働し粘り強く取り組み、振り返りを行いながらよりよい生活の実現に向けて、生活を創造しようとする実践的な力を身に付けている。	定期テスト レポート 振り返りシート

【身に付く力】家庭科を学ぶと・・・

自立 社会の変化に伴い、自分の生活を進んでよりよいものにしていく力が身につく。

共生 家族、地域、社会へと段階的に視野を広げ、社会の変化に伴ったより良い生活を工夫する力が身につく。

【学習目標】

健康・安全で豊かな食生活、衣生活、住生活に向けて、これらの知識と技能を身に付け、これからの生活を展望して課題を解決する力を養い、生活を工夫し創造する。

持続可能な社会の構築に向けて考え、工夫する活動を通して、消費生活、環境の知識と技能を身に付け、課題を解決する力を養い、これからの生活を工夫し創造する。

【授業の進め方(授業のポイント)】

- ・授業の目標を確認する。
- ・学習内容は、自分の生活に当てはめながら考えたり、課題を見つけたりする。
- ・課題に集中して取り組み、授業時間内に提出や完成を目指す。自分らしさを入れる。
- ・苦手な活動であっても見本をよく見たりグループで交流したりするなど自己調整して、学びを進める。
- ・実習の欠席について、ロイロノートの資料箱に途中見本があるので、課題を進め後日提出する。
- ・授業の振り返りをする。

【家庭学習について】

- ・学習する分野において、家族や地域の人がしていることを、見てみる、聞いてみる、やってみる。
- ・新聞、ニュース、本、ネットなどを、興味を持って読んだり見たりする。
- ・学んだことを実践し、失敗しても原因を考えてもう1回チャレンジする。
- ・教科書のQRコードを読み込んで理解を深める。
- ・ロイロノートで配布された授業の板書や使用した資料を見直す。

1学期		2学期		3学期	
3編1章 住まいの役割と安全な住み方 3編2章 生活を豊かにするために	○住生活 「住まいと気候風土との関わり」 「健康で快適な室内環境」 「住まいを安全・安心に」 bの姿・・・家の中の危険場所をみつめて対策を工夫することができる。未来の自分の住まいについて、自分の生き方に沿って創造し考えることができる。 ○衣生活 「持続可能な衣生活」 「エコバッグ」(製作) bの姿・・・正しい上系のかけ方、ミシンの扱いができる。まっすぐ縫う、返し縫いをすることができる。	3編3章 持続可能な衣生活 1編3章 食品の選択と購入 1編4章 日常食の調理と地域の食文化	○衣生活 「エコバッグ」(製作) 「持続可能な衣生活」 bの姿・・・持ち手を丈夫に縫い、自分なりのアレンジを工夫し表現することができる。 ○食生活□ 「献立作り」(向日市給食献立コンクール) 「食品の選択と購入」 「生鮮食品と加工食品の特徴」(調理実習) 「食品の保存と食中毒予防」 「日本の食文化」「持続可能な食生活」 bの姿・・・季節や添加物を考慮して、自分や家族に適した食品の選択ができる。安全で衛生的な肉、魚の調理ができ、実習で生じた課題から原因を考えて改善策を示している。	5編1章 私たちの消費生活 5編2章 責任ある消費者になるために 5編3章 持続可能な消費生活	○消費生活と環境 「消費者としての自覚」 「購入方法と支払い方法」 「バランス良く計画的な金銭管理」 bの姿・・・自分の消費生活を振り返り、様々な支払いの特徴を知って行動することができる。 「意思決定のプロセス」 「権利と責任」 bの姿・・・ニーズとウォンツを判断し、悪質商法の手口に気付き、対策を考えることができる。 「省エネルギーと持続可能な社会」

第2学年	教科名	使用教科書	三省堂 ニュークラウン2	担当教員	岩崎 佳子
------	-----	-------	--------------	------	-------

付けたい 資質・能力	主体的に自らの考えを発信する力	評価	評価の観点	評価の方法
		知識・技能	[知識] 英語の特徴やきまりに関する事項を理解している。 [技能] 実際のコミュニケーションにおいて、日常的话题や社会的な話題について、その内容を捉え、聞いたり、読んだり、話したり、書いたりする技能を身に付けている。	定期テスト パフォーマンステスト
		思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、必要な情報や概要、要点を聞いたり、読んだりして捉えている。 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、話し手に配慮しながら、主体的に英語で話したり、書いたりしている。	定期テスト パフォーマンステスト
		主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手・話し手・書き手に配慮しながら、言語活動を通して主体的に伝えようとしている。	パフォーマンステスト リフレクション(振り返り)

【授業の進め方(授業のポイント)】

①スモールトーク等で単元または本時に関連づかせた関心のある出来事や、日常または社会の出来事について、個別または協働的に考えながら話したり、書いたりすることで表現力を身に付ける。

②単元または本時のゴール(目標)の共有を生徒とともにに行い、見通しを持って授業に取り組む。

③実際のコミュニケーションにおいて活用される知識・技能を身につけたために、目的・場面・状況に応じて自分の考えを形成したり、深化させたり、さらに表現を選択したりして「論理的に表現」することを学ぶ。

⑤ふり返し:ゴール(目標)に照らし、どんなことができるようになったのかを振り返り、さらに次にどんなことができるようになりたいか、展望を持たせる。

【家庭学習について】

個別最適な学びを充実するために、

○テラトークを活用し、五領域を活用できるような課題を提示する。(学習時間の把握)

○生徒自らが主体的に取り組めるような「自身の課題」にもとづいた課題に取り組む。

1 学期		2 学期		3 学期	
Lesson 1 Meet New Friends will / be going to (未来の表現の復習)	新しいALTの先生に日本の学校について知ってもらうために、学校生活や行事について、詳しい説明や感想をつけ加えて、まとまりのある内容を目的・場面・状況に合わせて伝えることができる。	Lesson 4 Safe Clean Water ・ there is、動名詞	飲み水を手に入れる方法や自分の好きな事や趣味について、事実や自分の考えなどを書く技能を身につけている。	Lesson 7 Gifts from China ・ tell+A+that ・ 前置詞	経験したこと(経験していないこと)について、相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続することができる。
Lesson 2 Fun with Books when/if/that (接続詞)	会話を通してよりよい関係を築くために、相手が話した内容に関連する質問をしながら、相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続することができる。	Lesson 5 Visiting Australia (動詞 (showなど) +A+B)	海外から日本に来た旅行者に紹介したい場所について、相手の考えを求めたり、話題を広げたり深めたりしながら対話を継続することができる。	Lesson 8 Rakugo Goes to Overseas ・ 現在完了	お気に入りのものについて、事実や自分の考えなどを話す技能を身につけている。
Lesson 3 My Dream to (不定詞)	食べ残しを減らすためにできることについて、事実や自分の考えなどを正確に書く技能を身につけている。	Lesson 6 Friends from Singapore ・ 比較、助動詞	歓迎会で企画する文化体験について、事実や自分の考えなどを正確に書く技能を身につけている。		